Ⅰ　研究の基調

1　研究主題　　道徳資料の開発と活用に関する研究

2　研究の趣旨

新しい学力観を踏まえて，道徳資料を開発し，一人一人が自己との対話を豊かにできる道徳の授業の在り方についての研究を行い，各学校での道徳教育の改善・充実に資する。

3　主題設定の理由

(1)　道徳資料開発の必要性

文部省指導書道徳編よると「道徳の時間の目標の達成を図り，児童生徒に充実感をもたらすような生き生きとした指導を進めていくためには，すぐれた資料を用いることが大切である。」と述べ，資料開発の必要性を次のように述べている。

「資料が具備すべき要件を踏まえつつ，地域や郷土に素材を求めた資料を含め，新しい視点に立った多彩な資料の開発に努めることが期待される。」

(2)　道徳教育にかかわる意識実態調査

茨城県教育庁指導課の平成６年度小・中学校教育課程等の実施状況調査

平成６年度１年間の道徳授業時数の実施状況（平成７年３月調査）によると，小学校では35(34)時間以上実施したのが81.6％，中学校においては37.1％であった。

今後の課題としては，「道徳教育に対する教員の意識の向上」「道徳の指導方法等のの研修の充実」，「指導資料の開発，整備」をあげている。

また，郷土資料等の自作資料の開発状況については，小学校の62.8％，中学校の54.7％の学校が開発していないと回答している。

(3)　自己との対話を豊かにする意義

道徳は，自らを見つめ，自らに問いかけることから出発する。それは，外に表れている自己と内なる自己との対話を意味する。（小学校指導書　道徳編）

道徳的実践となる行為を可能にするには，行為の基盤となる内面的な力（道徳的実践力）を身につけさせる必要がある。そのためには，問題を自らの問題としてとらえ，その問題に対して自分はどのように考えるのか，何度も自分自身に問い直すこと，つまり自己との対話を豊かにすることである。

これらのことから，「道徳教育に対する教員の意識の向上」を高め，道徳の時間の改善・充実のために，児童生徒の実態や地域の特色を踏まえた道徳資料の開発及び資料の活用方法についての研究を推進すべきと考える。

4　研究の方法

(1)　研究期間　　平成７年度～平成８年度（２か年間）

(2)　研究の具体的な方法

研究協力員を委嘱して研究協議会を開催し，道徳の時間に使用する資料の開発と活用の在り方についての実践的研究を行う。

表１　研究協力員の構成

校　種	小　学　校			中学校部会	合　計
	低学年部会	中学年部会	高学年部会		
人　数	２　人	２　人	２　人	６　人	１２　人

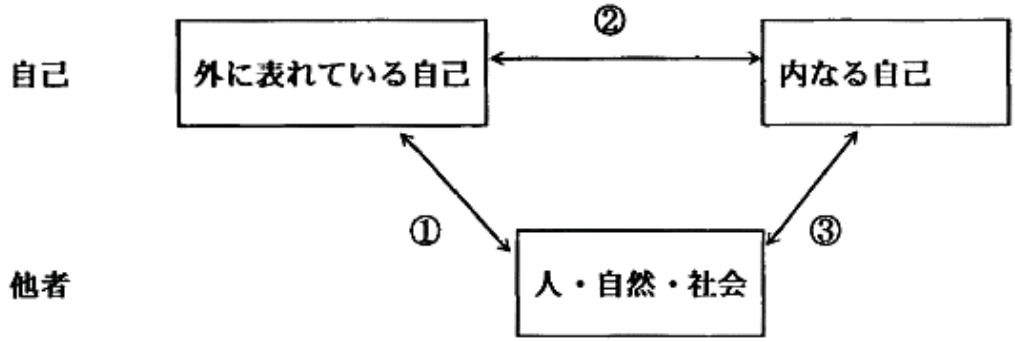
5　研究の経過

	月　日	内　容	参　加　者
平成七年度	６月３０日(金)	第１回　研究協議会 研究内容の説明，理論研修 講師　埼玉工業大学 教授　瀬戸　真　先生	教職教育課 指導主事 研究協力員
	８月２８日(月)	第２回　研究協議会 「自己との対話を豊かにできる道徳授業」の理論研究 資料開発の役割分担	
	１１月２１日(火)	第３回　研究協議会 開発する資料内容の検討	
	１月１８日(木)	第４回　研究協議会 資料内容及び活用方法の検討	
	３月２６日(火)	茨城県教育研修センター研究発表会で中間発表	
平成八年度	６月１７日(月)	第１回　研究協議会 道徳資料の内容と活用方法の検討	教職教育課 指導主事 研究協力員
	８月　９日(金)	第２回　研究協議会 資料分析表と道徳指導案の検討 授業分析方法の研究	
	１０月３０日(水)	第３回　研究協議会 授業分析と考察，資料の一部修正	
	１１月１８日(月)	第４回　研究協議会 報告書原稿内容検討	
	３月 ３月２５日(火)	報告書完成，配付 茨城県教育研修センター研究発表会で発表	

6　研究の内容

一人一人が自己との対話を豊かにできる道徳資料の開発に関する研究及び道徳の授業の在り方に関する理論研究を行い，授業研究を通して効果的な道徳指導の在り方を究明する。

(1)　一人一人が自己との対話を豊かにできる道徳の授業



これまでの授業においては，特に①の対話を大切し，そのことを重視しながら②の内なる自己との対話ができるようにしてきた。

これからの授業においては，①から②へ進む対話のみならず，③から②へ進む対話も重視する。さらに①から②に進む対話においても，②の対話がより活発化するように工夫する必要がある。

そのためには，直接③の対話が起こるような感動的な資料，自らかかわらずにはいられないような子どもの興味・関心や実態にあった資料等の魅力ある資料を開発することである。

また，教師のはたらきかけの工夫によっても，②の対話を活性化させることができると考える。

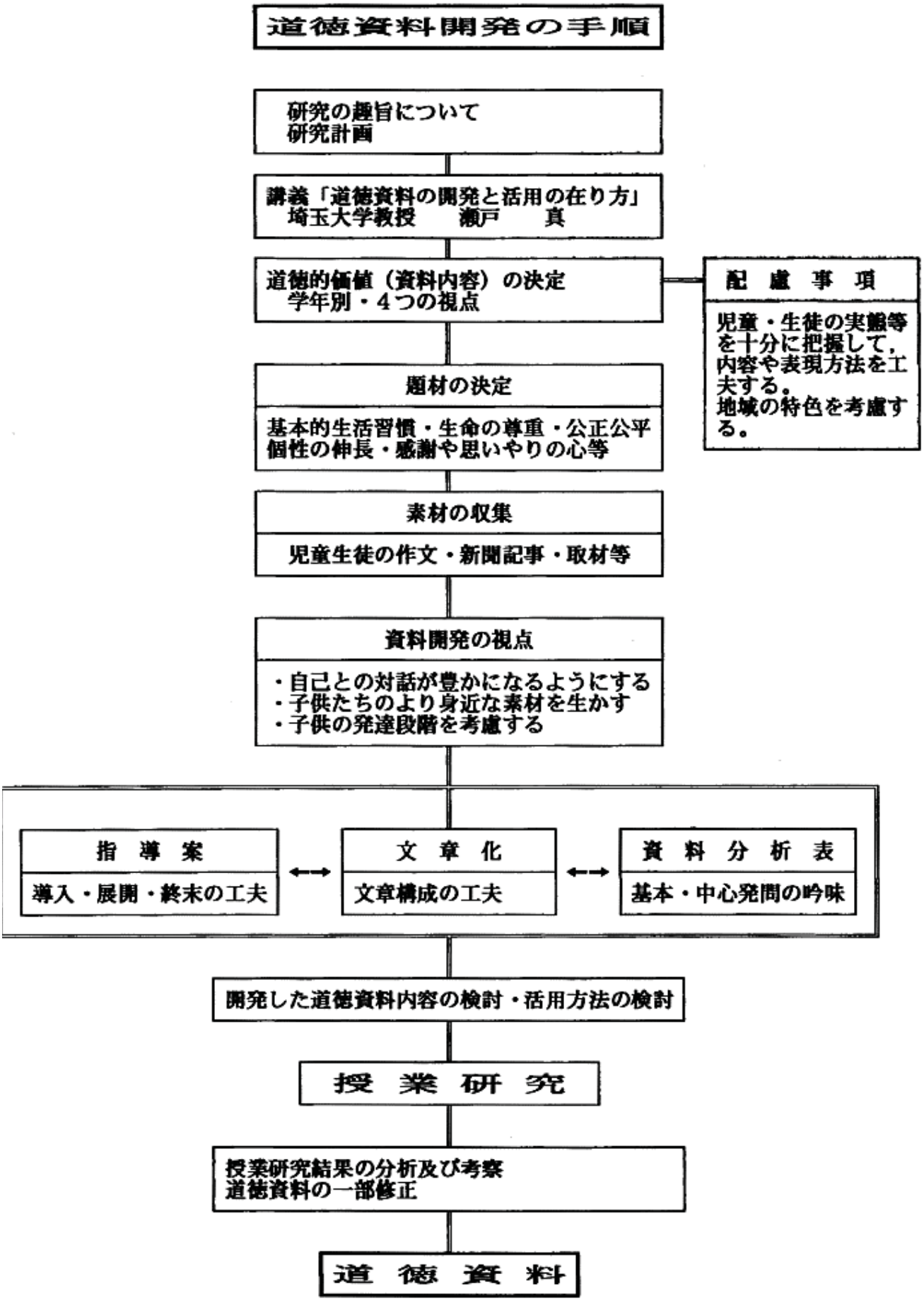
(2)　教師側がとらえた自己との対話を豊かにさせる要因

ア　教師の問いかけ（発問）
イ　資料内容（主人公の考えや行動）
ウ　友達の意見（みんなとの話合い）
エ　自分の考えを書くこと
オ　教師の説話
カ　その他

(3)　魅力ある資料開発を進める上での道徳資料の具備すべき要件

ア　ねらいを達成するのにふさわしい資料
イ　多様な価値観が引き出され深く考えさせる資料
ウ　特定の価値観に偏しない中正な資料
エ　児童・生徒の興味，発達に応じた資料
オ　読み物，視聴覚教材等の特質を生かした資料
カ　時間内で取り扱える資料

(4) 資料開発の手順


道徳資料開発の手順
研究の趣旨について
研究計画
講義「道徳資料の開発と活用の在り方」
埼玉大学教授　瀬戸　真
道徳的価値（資料内容）の決定
学年別・４つの視点
配慮事項
児童・生徒の実態等を十分に把握して，内容や表現方法を工夫する。
地域の特色を考慮する。
題材の決定
基本的生活習慣・生命の尊重・公正公平
個性の伸長・感謝や思いやりの心等
素材の収集
児童生徒の作文・新聞記事・取材等
資料開発の視点
・自己との対話が豊かになるようにする
・子供たちのより身近な素材を生かす
・子供の発達段階を考慮する
指導案
導入・展開・終末の工夫
文章化
文章構成の工夫
資料分析表
基本・中心発問の吟味
開発した道徳資料内容の検討・活用方法の検討
授業研究
授業研究結果の分析及び考察
道徳資料の一部修正
道徳資料

(5) 資料内容及び活用の在り方についての考察方法

内なる自己との対話を通して自己のよさや可能性に気付き，表面に表れている自己や他者とのかかわりを深めることを通して，授業のねらいとする道徳的価値のより深い把握になったかをみる。

ア　授業前・後の感想内容比較とアンケート調査

道徳的価値に対する意識の変容度合については，資料に対する授業前・後の感想内容の比較をすることでとらえる。

また，変容要因については，児童生徒にアンケート調査を実施してとらえる。これらのことから，自己との対話が豊かにできたかどうかを考察する。

ただし，小学校低学年等においては，授業前後の感想比較等ができないので，道徳の時間の中での発表内容やワークシートに書かれた内容をもとに意識の変容を考察する。

また，授業前の意識については，資料と同様な事例に対する意識調査等も活用する。

感想分析の視点

段階Ⅴ	高まった価値観から内省し自己の課題や目標をつかんでいるもの
段階Ⅳ	ねらいとする価値をつかみ内省しているもの
段階Ⅲ	ねらいとする価値に気付いているが客観的なもの
段階Ⅱ	資料の内容に対する共感（または批判）のみを述べているもの
段階Ⅰ	資料の内容について表面的に述べているもの

道徳意識の変容を見るための調査項目

1　今日の道徳の授業で，あなたはどんな考えや気持ちになりましたか。（類型）

ア　自分の考えや行動の間違いに気付いて改善できた。（改善）
イ　自分の考えや行動で足りないことに気付いた。（付加）
ウ　自分の考えや行動に自信がもてた。（確認）

2　それは，授業中のどんなことによってそう思うようになったのですか。（要因）

エ　親からの手紙
オ　先生の問いかけ（発問）
カ　みんなの考えを聞いたり自分の考えを話したりすること（話合い）
キ　自分の考えを書くこと
ク　主人公の考えや行動（資料内容）

イ　子どもの自己評価からみる道徳的価値に対する意識の変容

授業のねらいとする道徳的価値に対する子どもの意識の変容を把握するため，授業の前後に意識調査をして，考察する。

ウ　資料に対する子どもの評価（線結び式評価表）

資料に対する子どもの取り組む意欲を把握するため，下記のような項目について線結びをさせ，考察する。

《資料内容が》	《どんな内容だったので》	《どうだった》
	よく分かったので	やる気がでた
	よく分からなかったので	やる気がでなかった
	身近なものだったので	深く考えられた
	身近なものでなかったので	考えられなかった
	体験したことがあったので	心に残った
	体験したことがなかったので	心に残らなかった